

ルカの福音書 第17章 21節

「『そら、ここにある』とか、『あそこにある』とか言えるようなものではありません。いいですか。神の国は、あなたがたのただ中にあるのです。」

神の国はいつ来るのか、エルサレムの指導者たちの関心事であった。他国支配のなか、険しい日々を余儀なくされる者たちにとり、神の国の到来は人々の長年にわたる願いである。歴史上周辺諸国により幾多の侵略を経験してきた国民にとって神の国の到来は悲願であった。

神の国の到来を尋ねたのは、イエスに敵対していたグループの者たちである。彼らとそのグループの者たちであったかどうかは不明だが、イエスの働きと緊張関係にあったことは承知していたことは想像できる。しかし、イエスは彼らの問いに答える。彼らが待望する神の国の到来について答える。

それが、人の目で見えるようなものではない。人があそこ、とか、ここと指摘できるものでもない。町の様子が強いリーダーにより変えられることを期待する者には、失望のことばであったろう。拍子抜けしたかもしれない。しかし、イエスは神の国は来ていますと語る。「いいですか、神の国は、あなたがたのただ中にあるのです。」辺りを見るのではなく、あなたのところに来た。